

令和7年度第1回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨（三滝川・海蔵川）

日時：令和7年5月13日（火）

14:00～15:30

会場：三重県勤労者福祉会館5階 第2教室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議事

三滝川水系・海蔵川水系河川整備計画に係る意見聴取

4. 議事要旨

三滝川水系・海蔵川水系河川整備計画について、以下の通り議事を行った。

【委員】

気候変動を考慮した計画降雨の算出手法(p.78・79)について確認したい。伊藤 A 式で算出した降雨強度を国交省の方針に従って 1.1 倍したということか。

【事務局】

はい。現行整備計画では過去の降雨実績を用い、伊藤 A 式により計画降雨を算出しています。今回の変更では、この実績データに 2010 年までのデータを追加し、改めて現行整備計画で採用している伊藤 A 式を用いて最新の計画降雨を算出しました。国土交通省の提言に基づき、この値を 1.1 倍したものが気候変動を考慮した降雨強度としています。

【委員】

今回の計画では、住民の声を反映しているとのことだが、住民アンケートと三重県四日市建設事務所への要望の両方を踏まえているという理解でよいか。

【事務局】

はい。流域住民を対象としたアンケート結果と、地元自治会を通じて三重県四日市建設事務所に寄せられた要望の両方を踏まえ、計画に反映しています。

【委員】

今回のアンケートは WEB 方式を採用しており、回答しやすくなったと思うが、流域住民の意見をしっかりと集約できたのか判断が難しい。(p.30)

【委員】

回答数として 609 件とあるが、県内他河川の事例と比べて手応えとかはどうなのか。(p.30)

【事務局】

回答数は、想定より著しく少なく、また、回答率も県内他河川に比べて低かったです。そのため、三重県四日市建設事務所への地元要望も併せて参考にさせていただきました。WEB アンケートは、紙媒体に比べて手間が大幅に削減できることや幅広い意見を徴収できることを期待し採用しましたが、回答数が少なかったという結果を踏まえ、次回の住民アンケート実施にあたっては、配布時期や周知方法などを見直し、改善を図りたいと考えています。

【委員】

整備計画は、20~30 年後を目標年次としているが、気候変動を考慮した計画高水流量が、基本方針で定められている計画高水流量とほぼ同値となっている (p.77)。これは、現在から 20~30 年後で将来計画である基本方針が達成できるように見受けられる。示された整備区間において、目標年次までに必要な河道断面を確保できるのか。

【事務局】

整備は段階的に進めていく予定であり、目標年次までに計画どおりの河道断面を確保できるよう努めてまいります。次回の委員会では、具体的な整備計画案を示し、委員の皆様にご説明させていただきます。なお、三滝川・海蔵川については、主に三滝新川の効果発現のため、基本方針で定めた計画高水流量での整備を進めてきています。

【委員】

将来市街化想定(p.75)では、将来土地利用で将来の市街地割合が増えているが、この流域の人口は実態として増えているのか。

【事務局】

人口については近年横這い傾向です。一方で、世帯数は増加傾向にあります。

【委員】

将来の人口想定については、考慮しているか。

【事務局】

将来人口想定については考慮していません。本計画では、流出係数に大きく寄与する将来市街化率について考慮しています。今回の計画では、メッシュデータを活用して、現況市街化区域のほか、市街化区域は将来的には全て市街化する想定とすることにより、人口分布の変化や将来の市街化の伸びを計上しています。(p.75)

【委員】

三滝川の新規工事区間③(p.85)については、工事区間に加えてよいと考える。理由としては2点あり、まず1点目は、三滝川は海蔵川に比べて土砂堆積による洪水被害のリスクが高く、より危険な河川であるためである。このため、両河川を比較検討し、三滝川の方が治水上のリスクが高いという認識を共有できればと思う (p.65・66)。2点目は、一般的に、住宅団地のような開発地の直下流は洪水リスクが高く、到達時間も短いため、より危険な箇所と言えることである。新規工事区間③は、まさにそのような場所に位置しており、住民の安全確保のためにも積極的に整備を進めるべきである。住民アンケートの結果だけでなく、これらの工学的な根拠に基づいても、整備の必要性を説明することが重要だと考える。

【委員長】

工学的にも社会的にも意味がある、という説明にしてもらえたらと考える。

【事務局】

ご指摘のとおり、新規工事区間③を追加することは、住民の安全確保のための重要な変更点です。住民アンケートや地元要望の結果に加え、流下能力不足(p.24)や洪水浸水想定区域図(p.9)に示されている中上流域の広範な浸水区域の存在からも、整備の必要性は高いという説明に努めます。

【委員】

この流域の特徴の一つとして三滝新川の存在が挙げられるが、整備計画の中でその役割について明確に記載すべきである。ちなみに、三滝新川への分派頻度はどの程度か。

【事務局】

現在、低水路掘削が完了していないため、三滝新川に水が流れるのは年に1回あるかないかという程度です。しかし、掘削が完了すれば、年に1~2回程度は流れるようになって考えています。

【委員】

住民アンケートで整備済区間と未整備区間で分けた意図は?(p.32)

【事務局】

河川延長が長いので、地区分割して意見を分析する必要があると考えました。工事区間の延伸も課題と考えていたので、今回のような分割をして分析しました。結果として、未整備区間の菰野地区での整備要望が多いことが把握できました。

【委員長】

三滝川は、流下能力不足区間への対策が講じられている。一方で、海蔵川にも同様の区間が存在するにも関わらず、工事区間として含まれていない。この点について説明が必要と考える。(p.81)

【事務局】

海蔵川中上流部では、住民アンケートや地元要望において維持管理に関する要望が多く寄せられました(p.40)。これは、三滝川中上流部は住宅地が多いのに対し、海蔵川中上流は水田が多いという土地利用の違いが背景にあると考えられます(p.15)。また、浸水想定区域図においても、三滝川は人家に浸水が及ぶのに対し、海蔵川は農地を中心とした浸水となり、当面の整備を優先する区間として、三滝川を優先しております。この点については、今後説明を補足したいと考えます。